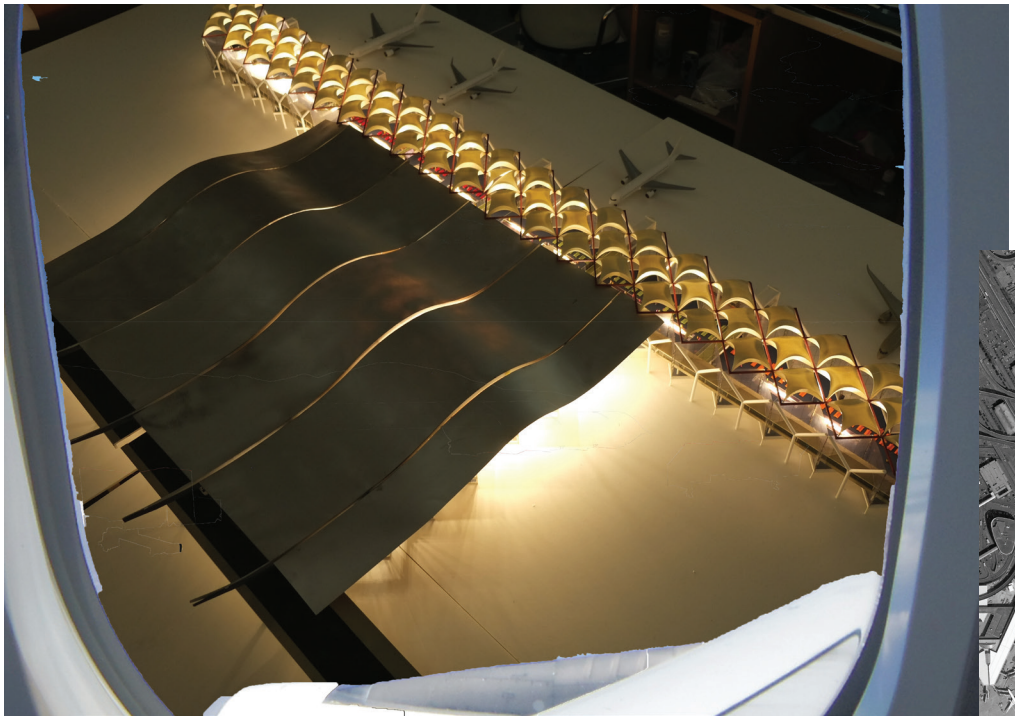
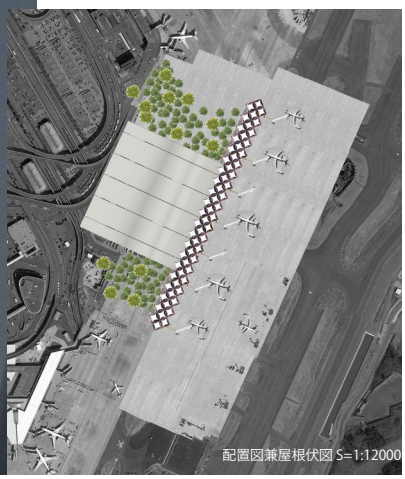
GATEWAY for EXPLORERS = NARITA

丸山 鉄朗
建築設計計画研究室





□コンセプト

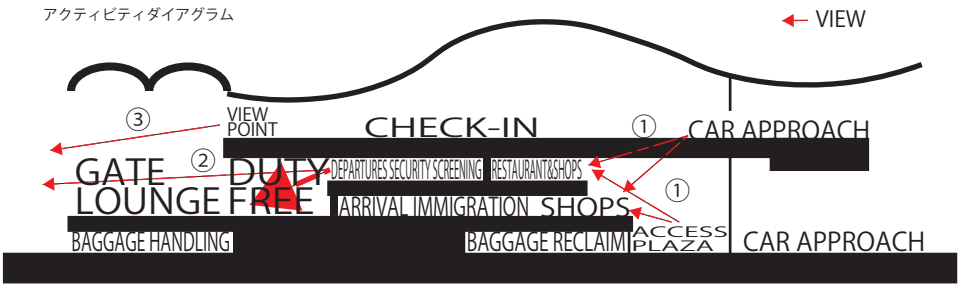
日本のほとんどの空港はどこか簡素である。建物が量産されていた時代、多くの空港が建てられ、中身は暗い。そこで、今回は空港の新たな形を提案したい。しかしながら、なにか社会問題を取り上げ、それを解決する建築も、もう限界であると考えている。今回は理論的に空間の快適さを解き、それを実践することにした。そこで、今回のコンセプトは「GATEWAY for EXPLORERS = NARITA」である。成田から世界に飛び立つ旅行者と、新たな建築を模索する建築家を表現した。

□プログラム

プログラムは視覚的効果と、空間の人間工学的解釈を取り入れた。例えば全てが見渡せるアクセスプラザ。ここはお店や施設が見渡せる直感的な行きたい場所を処理してくれる。また、空間の変化も研究した。公共空間の最適高さの文献は少ない。そこで今回はパーソナルスペースと、人間の視野角に注目して、天井高の最適高さを導いた。空間の展開も、大空間にありがちな、単調で飽きる空間でなく、空間の強弱で単調でも飽きのこない展開とした。

□デザイン

理論的な建築を作る上で、注目したのがプログラムで述べた、最適高さの導き出しであるが、デザイン面では日本らしさについて再考した。日本の建築といえば伝統工法の木造と連想する人が多いが、それはあまりにも短絡的だと感じている。日本は技術大国であり、その基礎技術には伝統工芸があり、それを体現するために、ハイテックと最先端を表現した。今回は伝統模様とメガストラクチャーを組み合わせた屋根を提案することにした。



① アクセスプラザ大吹き抜け
アクセスプラザは各階のアクティビティを一望できるため、どこに行くか選ぶことができる。

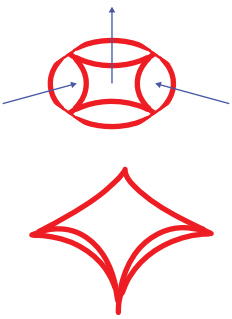
②出国後大吹き抜け
出国後の大吹き抜けはエアサイドを一望できるほか、露出する到着コンコースから日本らしさを感じられ、さらには免税売店への自然な流れも演出する。

③エアサイ ドビューラウンジ
エアサイドビューラウンジは、ゲートラウンジを望めるほか、エアサイドも一望できる。

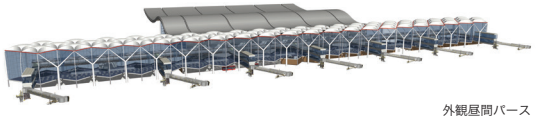
§ゲートラウンジ屋根

①七宝模様の屋根をゲートラウンジに載せる

②一つの七宝模様を屋根の形に立体化

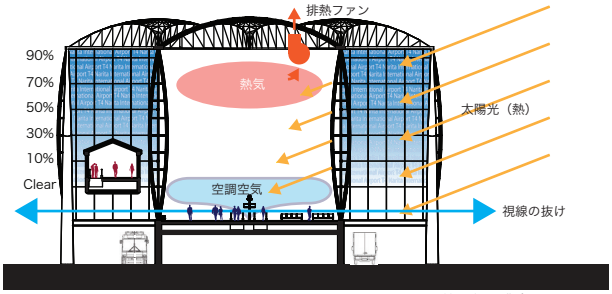


③連続させて七宝模様を復活



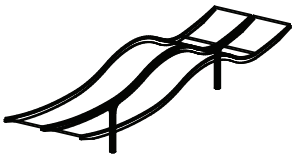
外観昼間パース

パターン焼き付けによるガラス透過性の確保

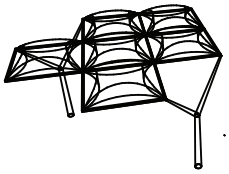


コンコース カーテンウォール焼き付け濃度図　S=1:800

構造体のパターン化によって増築が容易に



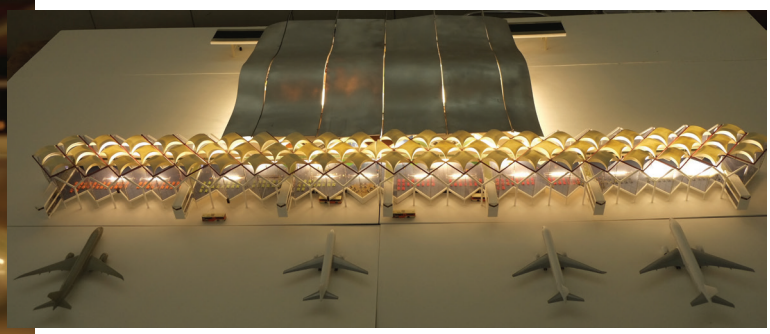
メインターミナルビル構造パターン



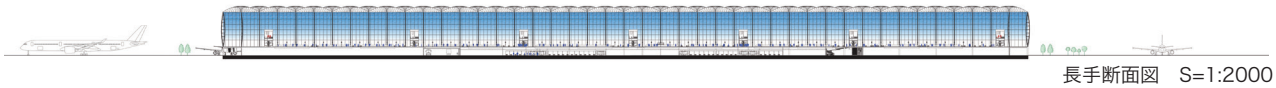
コンコース構造パターン

単調な構造体の連続とすることで国際旅客が増えることによる増築にも対応することができる。また、コンコースの構造体については鉄骨造によるユニットを採用することで工期の短縮が行えるようになっている。

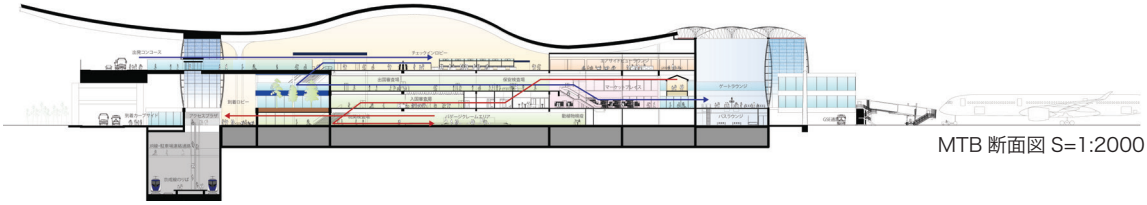
メガストラクチャー構造軸力負荷検討図



長手立面図　S=1:2000



長手断面図　S=1:2000



MTB 断面図 S=1:2000